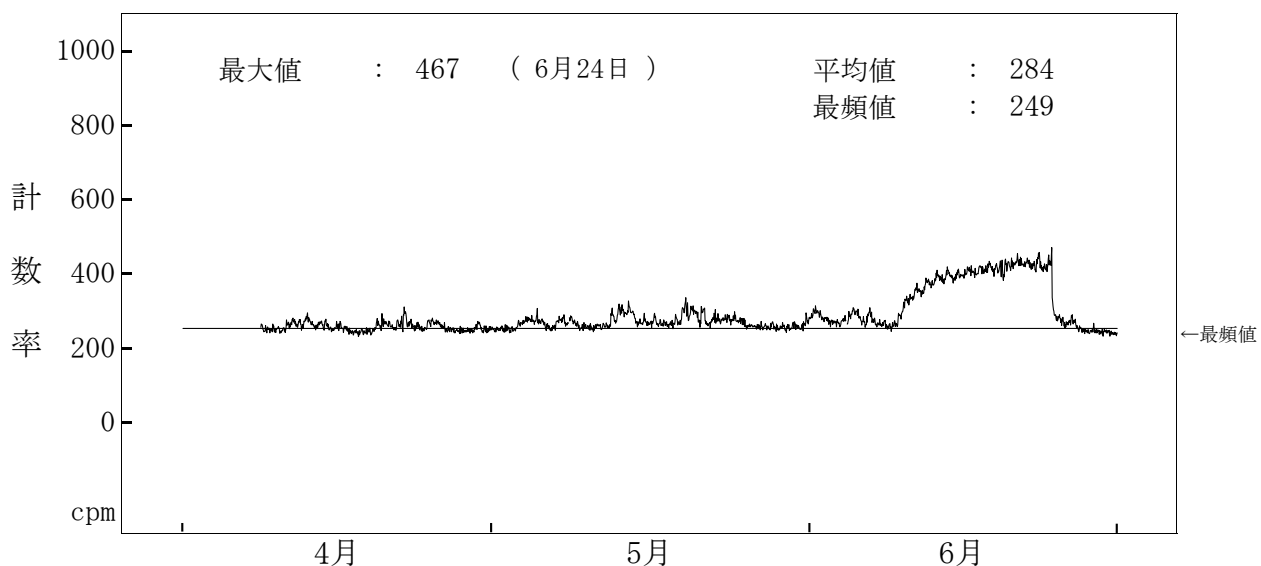


図－２－１２ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(A))

- (注1) 4月2日、4月7日及び4月8日の欠測は、定期点検によるものである。
- (注2) 4月1日～6月9日の計数率の変動は、定期点検のため海水ポンプの流量が低下したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。
- (注3) 6月9日～24日の計数率の上昇は、定期点検のため海水ポンプが停止したことにより、放水路の流れがなくなり、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層が検出器に接近したことによりベースラインが上昇したものと推定された。



図－２－１３ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(B))

- (注1) 4月1日～4月8日の欠測は、定期点検に伴い検出器を交換したことにより、計数率が高く推移し、適切な監視が困難であることから、欠測扱いとした。
- (注2) 5月8日及び6月4日の欠測は、定期点検によるものである。
- (注3) 4月8日～6月9日の計数率の変動は、定期点検のため海水ポンプの流量が低下したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。
- (注3) 6月9日～24日の計数率の上昇は、定期点検のため海水ポンプが停止したことにより、放水路の流れがなくなり、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層が検出器に接近したことによりベースラインが上昇したものと推定された。

令和7年度